

### 背景・目的

本研究は、「英語絵本の読み聞かせ」を以下の4つの目的で、特に発達臨床学科・児童教育学科の学生対象の一般教育英語科目の授業に取り入れることによって、「語り」を通じて意味内容の伴う英語学習（技能訓練）を行うものである。

- (1) 学習の動機づけ
- (2) 音読によるスピーキングスキルの育成
- (3) 非言語的コミュニケーションスキルの育成
- (4) 学科の専門教育との関連性を重視

### 実施内容

絵本を読み聞かせる活動は、保育士・幼稚園教諭などを目指す学生にとっては興味を持って取り組める学習課題である。この活動を英語学習に生かし、外国語の習得に欠かせない「繰り返し」による手続的知識の育成と内容の伴うコミュニケーション活動を目指す。加えて、表情・視線・声のトーンなど言語の運用に欠かせない非言語的コミュニケーションの重要性を理解させるよう努めた。好みの絵本を読み聞かせる「語り」という行為に、それを楽しんで聞いてくれる他者を意識させる事で、外国語によるコミュニケーションの楽しさ・責任を体験させた。



この活動のために大型絵本を購入した。読みたい絵本をグループで選択することにより、より自発的な取り組みを目指し、グループ内で物語や背景、登場人物を十分理解した上で音読練習をするよう促した。グループ内で練習を積み、

お互いにフィードバックすることで振り返りと改善に繋げるよう指導した。その後、他のグループに出向いて読み聞かせを実践した。

発展的に外国語で「書く」ことにも繋げるために、Mary Murphy 著 ”I like it when ...” (Red Wagon Books Harcourt) の「続き」を創作させ、紙芝居として実演した。これは、What do you like to do with the one you love most? (一番大切な人と何をするのが好きですか)という問いに各学生が答える形でそれぞれに創作した。



### 結果及び考察

学生たちはこの活動に積極的に参加し、絵本を物語る行為を通じて「意味内容」を伝達する学びを体験する過程で、単なる音読練習からは得られない英語の運用スキルを身につけた。棒読みにならず、適切なポーズを置き、聞き手を物語の世界に引き込む工夫をしながら練習に取り組む発表することができた。

しかし、英語での読み聞かせの適切なモデルを提示できなかったこと、振り返りにより課題を発見し、課題を克服するためにさらに練習するという学びのサイクルを構築できなかったため、カタカナ発音から脱皮できない、英語に特有の抑揚を体得できないなど、重要な問題点が残った。次年度は (1) モデルの提供、(2) 学習サイクルの構築を課題として継続して取り組む。